

2023年度

包装専士講座ご案内

CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

包装の専門家を育てるわが国最高レベルの講座

現在と将来の課題に重点をおいた実践的な内容
実践能力をつける少人数制、マンツーマン方式による指導



受講募集期間

2月1日(水)～4月28日(金)

募集コース

輸送包装コース(第36期) TRANSPORT

包装材料コース(第36期) MATERIALS

食品包装コース(第37期) FOODS

医薬品包装コース(第35期) MEDICINES

期間 | 2023年6月～2024年3月 主催 |  公益社団法人日本包装技術協会

包装専士講座のご案内

包装専士講座は〈包装の専門家〉を育てるわが国最高レベルの講座です。

本講座は、包装に携わる人々に求められる知識や技術が体系的、科学的に整理され、かつ実務的な内容を提供しており、実務経験の豊かな講師陣による実践的な講義、理論づけられた講義、事例研究、実際現場での実地研修など、本講座ならではの多彩な講師陣と教科構成となっております。

また、受講生は少人数制（各専門コース15名以内）とし、マンツーマン方式による指導の徹底を図っております。

本講座で培われる講師と受講生、受講生同士の‘情報交流ネットワーク’は本講座を修了した者だけが得ることのできる財産であり、包装分野における今後の問題や課題に挑戦していくためのパワーの源泉となっております。

本講座の修了者（＝包装専士）は、企業内及び包装界のリーダーとしての活躍が期待され、産官学からの分野のみならず消費者の方々からも高い評価をいただいております。

技術の向上発展、企業の繁栄は、絶え間のない人材の育成にあります。

この機会に、包装分野におけるより高度で創造的豊かな人材の育成を目指して、本講座への関係者各位のご推薦をお願い申し上げます。

2023年度 包装専士講座研修委員

委員長	小野 拓邦	東京大学名誉教授
副委員長	園山 洋一	公益社団法人日本包装技術協会 専務理事
委員	五十嵐 哲	工学院大学名誉教授
”	青木 和夫	日本大学名誉教授
”	小島 淳一郎	味の素(株) 執行役常務 食品事業本部副事業本部長 食品研究所長
”	北村 正	王子ホールディングス(株) 常務グループ経営委員
”	高見 義之	キリンホールディングス(株) 執行役員 R&D本部長
”	村本 守弘	大日本印刷(株) 専務執行役員
”	森長 祐二	DIC(株) 執行役員 パッケージングマテリアル製品本部長
”	川崎 功博	雪印メグミルク(株) 常務執行役員
”	乗竹 史智	ライオン(株) 取締役 執行役員
”	本松 裕次	レンゴー(株) 常務執行役員
”	神崎 敬三	東洋製罐グループホールディングス(株) 常務執行役員 調達担当
”	布山 英士	藤森工業(株) 代表取締役社長
”	小籠 宣幸	公益社団法人日本包装技術協会 常務理事

(敬称略)

開催概要

<p>募集コース</p>	<p>輸送包装コース (第36期) 全産業界共通で1社に1名の輸送包装専門家を育成</p> <p>食品包装コース (第37期) 食品業界・関連業界を中心に食品包装専門家を育成</p> <p>包装材料コース (第36期) 包材業界・関連業界を中心に包装材料専門家を育成</p> <p>医薬品包装コース (第35期) 医薬品業界・関連業界を中心に医薬品包装専門家を育成</p>
<p>受講期間</p>	<p>(1) 2023年6月～2024年3月(10ヵ月間) * 講義時間 10:00～17:00</p> <p>(2) 開講式 6月8日(木)</p>
<p>会場</p>	<p>(1) 開講式・オリエンテーション、共通教科1 *合宿研修(1泊2日) 湘南国際村センター ①会場案内: 逗子駅よりチャーターバス利用 ②宿泊室: シングル仕様 (神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 TEL 046-855-1800) なお、諸事情により、会場の変更の可能性があります。</p> <p>(2) 共通教科2 外部会議室</p> <p>(3) 専門教科(講義) 公益社団法人日本包装技術協会会議室</p> <p>(4) 専門教科(実地研修) 各実地研修会場</p>
<p>プラスワン制度</p>	<p>(1) ご希望により他の専門コース(実地研修以外)の1教科を無料聴講できます。</p> <p>(2) 開講日にプラスワン教科の申し込み書を配布いたします。</p>
<p>聴講制度</p>	<p>(1) 受講生でプラスワン制度の他に専門コースの聴講を希望する場合は、2教科まで受講することができます。</p> <p>(2) 包装専士で聴講を希望する場合は、3教科まで受講することができます。 * (1) (2)の聴講には聴講料がかかります(P2参照)。</p>
<p>出欠について</p>	<p>全講義を通じて欠席は1日以内が合格の条件となります。</p>
<p>資格</p>	<p>所定教科を受講し試験に合格した者には <包装専士> (CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL) の称号が与えられます。*P3参照</p>

募集要項

募集期間	2023年2月1日(水)～4月28日(金)
募集人員	<p>総数 40名。</p> <p>*各コース10名を目安とし、総数40名に達し次第締め切らせて頂きます。</p> <p>*受講申込者が5名未満のコースは開講しない場合があります。</p>
受講資格	<p>(1) 包装管理士講座を受講し<包装管理士>の称号取得者で、所属事業所(代表者又は上司)の推薦がある者。</p> <p>(2) <包装管理士>未取得者が受講する場合は、高校卒業以上の学力を有し、28歳以上で、包装関連業務に6年以上の経験を有し所属事業所(代表者又は上司)の推薦がある者。 但し、研修委員会が特に認めた者はこの限りではない。</p>
受講料	<p>会員(会員会社)：税込合計 352,000円(本体 320,000円、消費税10% 32,000円) 一般：税込合計 555,500円(本体 505,000円、消費税10% 50,500円) 但し、<包装管理士>は、10%割引となります。</p> <p>○受講料に含まれるもの：テキスト・資料、開講式～共通教科1の宿泊費(1泊3食*) *宿泊日の夕食、翌日の朝・昼食 ○受講料に含まれないもの：受講にかかる交通費</p>
キャンセル料	<p>諸事情により受講をキャンセルする場合は、書面にて事務局へご連絡ください。尚、その際に下記によりキャンセル料を申し受けますので予めご了承ください。</p> <p>(1) <u>出願受付期間内に受講を取り止めた場合</u> 受講料は全額返金します。(振込み手数料は御社負担となります)</p> <p>(2) <u>出願期間後に受講を取り止めた場合</u> 受講料の一切を返金いたしません。未入金の場合には全額キャンセル料として頂きます。</p>
聴講料* <small>*聴講制度</small>	<p>1教科：税込合計 11,000円(本体 10,000円、消費税 10% 1,000円) ○聴講希望教科の講義日の2ヵ月以上前に申し込んでください。</p>

本講座は【人材開発支援助成金】の対象として認められる場合があります。
詳細は厚生労働省のホームページをご参照ください。

<p style="text-align: center;">申込方法</p>	<p>(1) 最終頁の「包装専士講座受講願書」に必要事項を記入し、顔写真を貼付して、下記の申込み先宛にご送付ください。</p> <p>(2) 受講願書をご送付の際、受講者の名刺を1枚同封してください。</p> <p>(3) 受講資格審査の上、関係書類、受講料請求書をお送りします。 * 受講料は請求書に記載の指定口座に5月19日(金)までにお振り込みください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><「包装専士講座受講願書」に記載の個人情報の取り扱いについて></p> <p>(1) 「包装専士講座受講願書」から受講生名簿を作成します。</p> <p>(2) この受講生名簿は包装専士講座事業運営に使用する他、包装専士講座講師及び受講生に配付します。その他、公益社団法人日本包装技術協会が主催する事業のご案内のために利用させていただきます。</p> <p>(3) この受講生名簿は、法令に基づく場合を除き、第三者に開示、提供しません。</p> </div>
<p style="text-align: center;">その他</p>	<p>(1) 諸事情により、プログラムの一部を変更することがあります。</p> <p>(2) 受講者・聴講者以外の方にはテキスト、その他資料は配付しません。</p> <p>(3) 企業訪問の現地研修については、同業種の方は受講申込み時に、当該教科と他コースの希望教科への変更をお願いすることがあります。</p>

お問い合わせ・申込み先

公益社団法人日本包装技術協会 (JPI) 包装技術研究所・包装専士講座事務局
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階
TEL (03)3543-9351 FAX (03)3543-8970

合格後の称号と特典

- (1) 所定教科を受講し試験に合格した者に
 <包装専士> (CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL) の称号を授与します。
 この称号は、包装技術の専門家である証として権威づけられます。
- (2) 包装専士には、包装専士講座講師、包装管理士講座講師、J I S 委員会委員、各種研究会の委員など、活躍の道が開かれています。
- (3) 包装専士有資格者は日本包装専士会*に入会することができます。

* 詳細は、日本包装専士会ホームページをご参照ください。

包装専士講座 共通教科

■共通教科1

月 日	教科と内容	講 師
6/8 (木)	開講式・オリエンテーション	
	開講講演	東京大学名誉教授 農学博士 小野 拓邦 氏
	環境課題に対して ①環境課題の状況 ー消費者動向も踏まえてー ②国内外のサステナブル動向 ー政府指針及び企業の取組みー ③環境課題に対して凸版印刷の提供できるサステナブルソリューション	凸版印刷(株) 生活・産業事業本部 サステナブルパッケージングセンター センター長 有浦 澄 氏
	包装(容器)産業とこれからの(経営)課題 包装容器産業が果たしてきた社会的役割をライフスタイルの変遷から考察し、社会・環境課題に直面している包装容器産業のこれからの経営について、包装産業にかかわる私たちの使命について述べる。	東洋製罐グループホールディングス株 常務執行役員 調達担当 神崎 敬三 氏
	包装の専門家をめざして (1)専門コース別研修 (2)異業種交流研修	包装専士講座事務局
6/9 (金)	包装ビジョンⅠー包装開発における知的財産情報の活用ー ①包装開発における知的財産マネジメントの有用性と課題 ②知的財産情報へのアクセス方法とその分析方法(パテントマップ) ③知的財産情報の活用事例紹介 ④包装分野別の公開特許情報のパテントマップ作成と分析実習	白倉技術士事務所 所長 技術士 弁理士 白倉 昌 氏
	包装専士論文作成技法 ①論文とは ②包装専士論文作成要領 ③論文作成スケジュール	包装専士講座事務局

■共通教科2

6/19 (月)	包装ビジョンⅡー世界の包装市場ー ①世界の包装トレンド、循環型パッケージへの取り組み状況、EU規制の影響他 ②AI、ロボット、リモート制御、小ロット対応など生産及び供給体制の変化 ③新しい包装の動き、求められる機能の変化及び活用事例	住本技術士事務所 所長 技術士 住本 充弘 氏
	包装ビジョンⅢー包装新技術ー ①包装設計 ②新規包装材料(ガスバリア材、バイオプラスチック包材) ③食品包装技法 ④電子レンジ食品 ⑤アクティブパッケージング ⑥バリアコーティング包材・容器 ⑦アクティブバリアボトル	包装科学研究所 主席研究員 工学博士 葛良 忠彦 氏
6/20 (火)	包装ビジョンⅣ ーデジタルデバイスによるコミュニケーション変化と包装ー 生活者接点のデジタルテクノロジーと包装技術の関わりをご紹介 ①IoT、スマートフォンが変える生活者の情報接点 ②デジタルテクノロジーにより変わる商品コミュニケーション ③デジタルテクノロジーに対応する包装技術	凸版印刷(株) 情報コミュニケーション事業本部 コミュニケーションデザイン本部 インタラクティブ1部 部長 横溝 浩一 氏
	包装ビジョンⅤー環境配慮ー ①環境問題の歴史 ②包装における環境対策 キーワード：パリ協定、SDGs、プラスチック資源循環戦略、プラ新法、環境配慮包材 他	大日本印刷(株) 研究開発・事業化推進センター事業 開発本部食とヘルスケア事業開発 ユニット 課長 多久島 和弘 氏

1. 輸送包装コース

月 日	教科と内容	講 師
6/29 (木)	<p>[1] 実地研修 段ボール設計技法 *レンゴー(株) 包装技術センター</p> <p>①段ボール原紙の製紙からシート貼り合せ、箱の製造工程について ②段ボールの種類や形式・箱の設計方法について ③段ボール箱の特性と主な包装貨物試験方法について</p>	<p>レンゴー(株) 開発本部 包装技術第一部 部長代理 包装専士 西川 洋一 氏</p>
6/30 (金)	<p>[2] 実地研修 易損性の測定・評価技法実習 *リコーテクノロジーセンター(海老名市)</p> <p>①流過程で発生する障害を想定し、その障害に対する製品易損性の評価手法の紹介 ②具体的事例や評価設備を用いたデモンストレーションを交えての説明</p>	<p>(株)リコー Digital Products BU OC事業本部 OC事業センター 第三画像 技術開発室 開発二グループグループリーダー 包装専士 合田 秀之 氏</p>
9/13 (水)	<p>[3-1] 輸送環境情報と活用技術Ⅰ -輸送試験-</p> <p>①輸送環境の実態 ②輸送環境計測の目的 ③輸送環境データの計測方法 ④輸送環境データの統計解析 ⑤解析結果の活用</p>	<p>前オリンパス(株) 包装専士 藤井 幸則 氏</p>
	<p>[3-2] 輸送環境情報と活用技術Ⅱ -合理的包装設計-</p> <p>①適正包装設計の考え方と具体的手順 ②包装貨物試験基準作成のための輸送環境調査 ③製品の衝撃性能を数値化する衝撃強さ試験 ④緩衝材料データに基づく包装設計 ⑤包装設計の妥当性確認のための包装貨物評価試験</p>	<p>神栄テクノロジー(株) システム事業本部 部長 工学博士 川口 和晃 氏</p>
10月 月上旬予定	<p>[4] 実地研修 輸送環境情報と活用技術Ⅲ</p> <p>内容を選定中</p>	<p>講師:講師選定中</p>
10/20 (金)	<p>[5] 緩衝設計技法Ⅰ -プラスチック系-</p> <p>①プラスチック系緩衝材を使用した最適包装設計の理論とアプローチ技法 ②コストを意識した設計のポイント ③最近のCAE技術、シミュレーション技術を適用した衝撃解析技法</p>	<p>(株)東北ウエノ 代表取締役 包装専士 鈴木 雅彦 氏</p>
11/10 (金)	<p>[6] 実地研修 緩衝設計技法Ⅱ-シミュレーション活用実習-</p> <p>*旭化成(株) 樹脂製品事業部</p> <p>①オリエンテーション ②緩衝設計のおさらい ③事前課題の受講生各自による説明 ④シミュレーション結果の解説 ⑤実落下試験の見学</p>	<p>旭化成(株) 機能材料事業部 フォーム製品営業部 設計ソリューショングループ長 高田 幹生 氏</p>
11/29 (水)	<p>[7] 緩衝設計技法Ⅲ-紙系緩衝材の種類とその特性-</p> <p>①段ボール物性等の補足知識 ②紙系緩衝材の考え方 ③事例の紹介</p>	<p>王子コンテナ(株) 営業本部CS推進部(静岡) 主幹 包装専士 中村 圭太 氏</p>
1/10 (水)	<p>[8-1] 国際物流Ⅰ -輸出包装に関する法規制と規格-</p> <p>①包装に関する法律と規格 ②包装への遵法の要求 ③海外で包装に求められる法的要求事例</p>	<p>ソニーグローバルマニュファクチャリング& オペレーションズ(株) 設計部門プラットフォーム技術6部 包装専士 正木 克也 氏</p>
	<p>[8-2] 国際物流Ⅱ -輸出包装技法-</p> <p>①輸出梱包のための必要情報 ②輸送条件別梱包クラスの設定 ③輸出梱包設計技法 ④梱包用材料の害虫処理 ⑤輸出梱包の3R対応</p>	<p>NX商事(株) ロジスティクス・サポート事業部 品質管理部 担当部長 包装専士 高橋 慶 氏</p>
1/30 (火)	<p>[9] 事例研究</p> <p>①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・ポイント・解決策を検討 ③包装設計の技術課題についてのグループ学習・発表・討議を行う</p>	<p>パッケージングラボラトリー 主宰 包装専士 松田 考司 氏 三菱電機(株)住環境研究開発センター 専任 包装専士 山崎 正博 氏</p>
2/29 (木)	<p>包装専士論文</p> <p>各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する</p>	<p>包装専士講座研修委員</p>

包装専士講座 専門教科

2. 食品包装コース

月 日	教科と内容	講 師
6/28 (水)	[1] 実地研修 *雪印メグミルク(株) 阿見工場 ①工場見学 ②雪印メグミルク(株)の包装開発の考え方 ③包装事例紹介(チーズ、マーガリン、その他の容器)	雪印メグミルク(株) ミルクサイエンス研究所 技術開発研究室 主査 山住 弘 氏
7/3 (月)	[2] 食品用高機能パッケージ ①食品包装の役割と仕様設計 ②食品包装の材料と品質保持のための包装技法 ③最新の高機能パッケージの開発動向(機能性、環境配慮、使い易さ)	大日本印刷(株) 研究開発・事業化推進センター 事業開発本部 食とヘルスケア事業開発 ユニット開発第3部第2課 課長 包装専士 齋藤 文彦 氏
8/3 (木)	[3-1] 食品包装と品質保持 ①食品の品質を劣化させる要因(食品成分、特性、外的環境の要因) ②食品の品質保持の工夫(食品、容器包装からのアプローチ) ③実際の食品包装への工夫・設計の例	キューピー(株) 技術ソリューション研究所 シニアコーポレートサイエンティスト 工学博士 高山 崇 氏
	[3-2] 食品包装と微生物対策 ①微生物と食中毒 ②微生物の制御方法 ③微生物制御のための包装技術	東京農業大学 農学部 教授 農芸化学博士 多田 耕太郎 氏
9/14 (木)	[4-1] 食品包装及び包装材料の安全性と法規制 *包装材料コースと合同 ①食品包装と包装材料の安全性 ②食品衛生法 ③器具・容器包装の規格基準 ④ポジティブリスト制度	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 客員研究員 薬学博士 河村 葉子 氏
	[4-2] 食品メーカーにおける容器・包装の安全・衛生性に対する考え *包装材料コースと合同 ①食品メーカーとしての考え方 ②安全衛生で留意すべき点 ③容器からの有害物質溶出への対応	カゴメ(株) イノベーション本部 安全性評価技術開発部 課長 包装専士 加藤 道昭 氏
10/17 (火)	[5] 食品包装設計技術Ⅰー固体・粉体包装ー ①各種食品包装と特徴 ②食品包装の要求品質 ③食品包装設計 ④粉体食品の充填・包装 ⑤食品包装の環境取組	味の素食品(株) 三重工場 第一製造部 保全課 保全課長 包装専士 木原 隆行 氏 味の素食品(株) 技術本部 技術開発部 グループ長 包装専士 佐藤 知意 氏
11/7 (火)	[6] 食品包装設計技術Ⅱーレトルト、アセプティック包装ー ①レトルト食品と包材・容器の設計 ②レトルト食品の殺菌理論と方法 ③アセプティック包装の理論と方法	東洋製罐(株) テクニカルセンター 基盤技術開発部 主査 田辺 利裕 氏 主幹 包装専士 芋田 大輔 氏
11/30 (木)	[7-1] 食品包装設計技術Ⅲー包装機械・システムー 内容を選定中	講師：講師選定中
	[7-2] 食品包装設計技術Ⅳー包装試験法ー ①ライン適性 ②内容物保護性 ③保存性 ④利便性 ⑤物流適性 ⑥その他	ハウス食品グループ本社(株) 研究開発本部 容器包装開発部グループ長 包装専士 小野 公裕 氏
1/15 (月)	[8] 包装デザインに対する感性評価法 *包装材料コースと合同 ①感性デザイン ②デザインの認知と感性情報 ③デザイン評価 ④感性工学 ⑤デザインと感性評価	千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科 教授 佐藤 弘喜 氏
1/31 (水)	[9] 事例研究 容器包装設計者の視点に立ち、市場製品の分析結果を報告していただくが、グループワークによる相互評価を通して新たな視点の気付きを得て専門性の向上を目指す。また、本講座で学んだ知識をフル活用し、食品包装の設計を体験する。	(株)久原本家グループ本社 商品開発部 担当部長(包装容器開発担当) 包装専士 菅原 宏智 氏 森永製菓(株) 生産本部 調達部 材料グループ 包装企画担当 包装専士 平野 晃 氏
3/1 (金)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装専士講座研修委員

包装専士講座 専門教科

3. 包装材料コース

月 日	教科と内容	講 師
7/13 (木)	[1] 包装材料とコンバーティング技術 ①印刷の発展と対象分野の拡大 ②印刷の基本技術 ③包装と印刷 ④環境配慮型包装 ⑤包装印刷とユニバーサルデザイン ⑥軟包装材の製造	凸版印刷(株)生活・産業事業本部 パッケージソリューション事業部 開発本部 関西開発部 部長 工学博士 吉永 雅信 氏
8/4 (金)	[2] 包装材料科学 [材料編] ①包装での高分子 ②分子量 ③橋架けと特性 ④ガラス転移温度 ⑤粘弾性 ⑥組合せの利点 [接着編] ①接着の特徴 ②表面間相互作用 ③性能向上法 ④力学的解析 ⑤予測と信頼性	東京大学名誉教授 農学博士 小野 拓邦 氏
9/14 (木)	[3-1] 食品包装及び包装材料の安全性と法規制 *食品包装コースと合同 ①食品包装と包装材料の安全性 ②食品衛生法 ③器具・容器包装の規格基準 ④ポジティブリスト制度	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 客員研究員 薬学博士 河村 葉子 氏
	[3-2] 食品メーカーにおける容器・包装の安全・衛生性に対する考え *食品包装コースと合同 ①食品メーカーとしての考え方 ②安全衛生で留意すべき点 ③容器からの有害物質溶出への対応	カゴメ(株)イノベーション本部 安全性評価技術開発部 課長 包装専士 加藤 道昭 氏
10/18 (水)	[4] 高機能包装材料Ⅰー軟包装ー 軟包装材に使用されている各種材料について、昨今のSDGsにおける軟包装業界の 動向等も踏まえながら、その特徴と包装材料としての性質について、様々な化学的知識を学ぶ。	藤森工業(株)研究所 ライフサイエンス 開発部機能性容器開発グループ 席主任研究員 包装専士 小野 松太郎 氏
11/8 (水)	[5-1] 高機能包装材料Ⅱーガラス容器ー ①ガラスびんの概要 歴史・マーケット ②ガラスびんの製造方法 ③ガラスびんの軽量化 ④ガラスびんの加飾 ⑤ガラスびんの3R	東洋ガラス(株) 生産本部 生産技術部 型・成形グループ グループリーダー 金光 真一郎 氏
	[5-2] 高機能包装材料Ⅲープラスチック剛性容器、金属容器ー ①剛性容器である金属缶、PETボトル、オレフィンボトルについて、その製造方法と 主要材料(スチール材、アルミ材、塗料、PET樹脂、オレフィン樹脂、バリア材など)について	東洋製罐(株) テクニカルセンター基盤技術開発部 主幹 西田 弘 氏
12/4 (月)	[6-1] 高機能包装材料Ⅳー紙容器ー ①紙材の特徴 ②紙容器の現状と課題 ③これからの紙容器	(株)クラウン・パッケージ 社長付 広報室 室長テクニカルマネージャー 包装専士 八木野 徹 氏
	[6-2] 高機能包装材料Ⅴー新包装材料ー ①バリア性材料 ②透過性制御材料 ③環境対応材料(バイオプラスチック等) ④バイオミメティクスを応用した材料 ⑤アクティブ/インテリジェント材料	(株)クレハ 樹脂加工事業所 技術部 部長 包装専士 田中 幹雄 氏
1/15 (月)	[7] 包装デザインに対する感性評価法 *食品包装コースと合同 ①感性デザイン ②デザインの認知と感性情報 ③デザイン評価 ④感性工学 ⑤デザインと感性評価	千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科 教授 佐藤 弘喜 氏
1/16 (火)	[8] 実地研修 *日本ポリエチレン(株) 研究所&工場 ①川崎工場製造設備と研究開発部の見学 ②講演「ポリエチレン樹脂の容器包装への適用について」	日本ポリエチレン(株) 包装資材営業本部フィルムグループ マネージャー 藤森 泰輔 氏 研究開発部4グループ グループリーダー 松本 律哉 氏
2/1 (木)	[9] 事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答)を解説	味の素(株)食品研究所 包装設計グループ 主席研究員 包装専士 松嶋 健治 氏 花王(株)包装技術研究所 2室 席主任研究員 包装専士 岡 政弘 氏 フタムラ化学(株) 中部統括 開発グループ グループリーダー 包装専士 花市 岳 氏
3/4 (月)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装専士講座研修委員

4. 医薬品包装コース

月 日	教科と内容	講 師
7/6 (木)	<p>[1] 実地研修 *内藤記念くすり博物館、エーザイ(株) 川島工園 ①内藤記念くすり博物館見学 ②エーザイ(株) 川島工園見学 ③講演(くすり創りの歴史)</p>	<p>エーザイ(株) 内藤記念くすり博物館 館長 森田 宏 氏</p>
7/7 (金)	<p>[2] 医薬品包装と情報伝達技術 ①医薬品の表示に関する規制 ②直接の容器等への表示(薬機法50条各号) ③劇薬・毒薬の表示 ④一般用医薬品の表示 ⑤医療事故防止対策 に関する表示 ⑥薬機法改正関係(添付文書の電子化と特定用符号)</p>	<p>関西医薬品協会 薬事法規研究委員会 包装・表示部会 常任委員 部会長 包装専士 伊勢本 司 氏</p>
7/20 (木)	<p>[3-1] 医薬品包装設計技術 ①医薬品包装の機能・役割 ②医薬品包装設計の進め方 ③医薬品包装トピックス</p>	<p>アステラス製薬(株) 製薬技術本部 製剤研究所 包装・デバイス研究室 主管研究員 薬学博士 包装専士 小島 清樹 氏</p>
	<p>[3-2] 医薬品包装と品質保証 ①医薬品包装とバリデーション ②包装関連の試験方法と評価</p>	<p>日本包装技術協会 包装技術研究所 生活者包装研究室長 包装専士 神谷 文敏 氏</p>
9/15 (金)	<p>[4] 医療現場および在宅医療における医薬品包装について *飯山赤十字病院および在宅医療現場において実地研修、講義 ①一般病院での医薬品の安全対策 ②在宅における薬剤師の関わり ③その他</p>	<p>日本赤十字社 飯山赤十字病院 薬剤部 調剤課長 滝澤 康志 氏 調剤係長 西澤 さとみ 氏</p>
10/19 (木)	<p>[5] 医薬品の包材選択と応用技術 ―プラスチック軟包材を中心に― ①医薬品包装に求められる機能と循環型社会の中での使命 ②包材 選択の基本(設計基礎知識、プラスチックの特性、成形加工、結晶性等) ③設計上の留意点(防湿・防気、相互作用、機能性向上技術等) ④実践課題と演習</p>	<p>藤森工業(株) 研究所 執行役員 研究所長 包装専士 鈴木 豊明 氏</p>
11/15 (水)	<p>[6] 医薬品の剤形別包装技術と応用 I ―液剤― ①医薬品包装の役割について ②医薬品の剤形別包装技術について (注射剤, 内用・外用液剤, 点眼剤, 点鼻剤)</p>	<p>第一三共(株) 製薬技術本部 製剤技術研究所 包装・製剤エンジニアリング研究G 主任研究員 包装専士 千田 隆行 氏</p>
12/1 (金)	<p>[7] 医薬品の剤形別包装技術と応用 II ―固形剤― ①医薬品の包装設計と固形剤の包装形態・求められる機能 ②各種包装形態の概要や注意すべきポイント ③包装の課題や近年の話題など</p>	<p>シオノギファーマ(株) 生産技術部 包装部門 グループ長 福島 厚志 氏</p>
1/12 (金)	<p>[8] 医療過誤防止と人間工学(容器・包装を中心に) ①人間工学概要 ②人間の情報処理とヒューマンエラー ③医療安全の製品設計と原理原則 ④人体計測からの製品適合および製品評価</p>	<p>玉川大学 工学部 エンジニアリングデザイン学科 教授 三林 洋介 氏</p>
2/2 (金)	<p>[9] 事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答)を解説</p>	<p>第一三共ヘルスケア(株) サプライチェーン統括部 包装専士 金子 智彦 氏 富山スガキ(株) 企画制作部 主任 赤井 智昭 氏 中外製薬工業(株) 藤枝工場製造9グループ グループマネジャー 包装専士 友尻 吉弘 氏</p>
3/5 (火)	<p>包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する</p>	<p>包装専士講座研修委員</p>



開講式・オリエンテーション・共通教科I(合宿研修)
会場



開講式・オリエンテーション・共通教科I(合宿研修)
研修室



2022年度 講義風景1



2022年度 講義風景2

包装専士講座 全体進行概念図

*1

開講式・オリエンテーション
6月8日

*2

共通教科(1,2)
6月8、9、19、20日

*3 <専門教科>

輸送包装コース
7月～2月

食品包装コース
7月～2月

包装材料コース
7月～2月

医薬品包装コース
7月～2月

*4

包装専士論文発表～合否審査
2月29日～3月5日 *専門コース別に実施

*5

合格証書授与式
3月25日

包装専士
CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

* 1 開講式・オリエンテーション

- (1) 開講式は、「湘南国際村センター」で、6月8日(木)13:00から行います。
- (2) 開講式・オリエンテーションに引き続いて共通教科1の講義に入ります。(1泊2日の合宿研修)

* 2 共通教科(1、2)

- (1) 包装専士講座受講生全員共通の教科です。4コース合同で行います。
- (2) 各講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (3) 共通教科1は湘南国際村センター、共通教科2は公益社団法人日本包装技術協会又は、外部会議室で行います。

* 3 専門教科(4コース)

- (1) 7月からは、受講申し込み時に選択した専門コースに分かれて、講義と実地研修を行います。
- (2) 講義は公益社団法人日本包装技術協会で、実地研修はそれぞれの現地で行います。
- (3) 講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (4) 希望により他コースの講義を聴講することができます(プラスワン制度、聴講制度)。

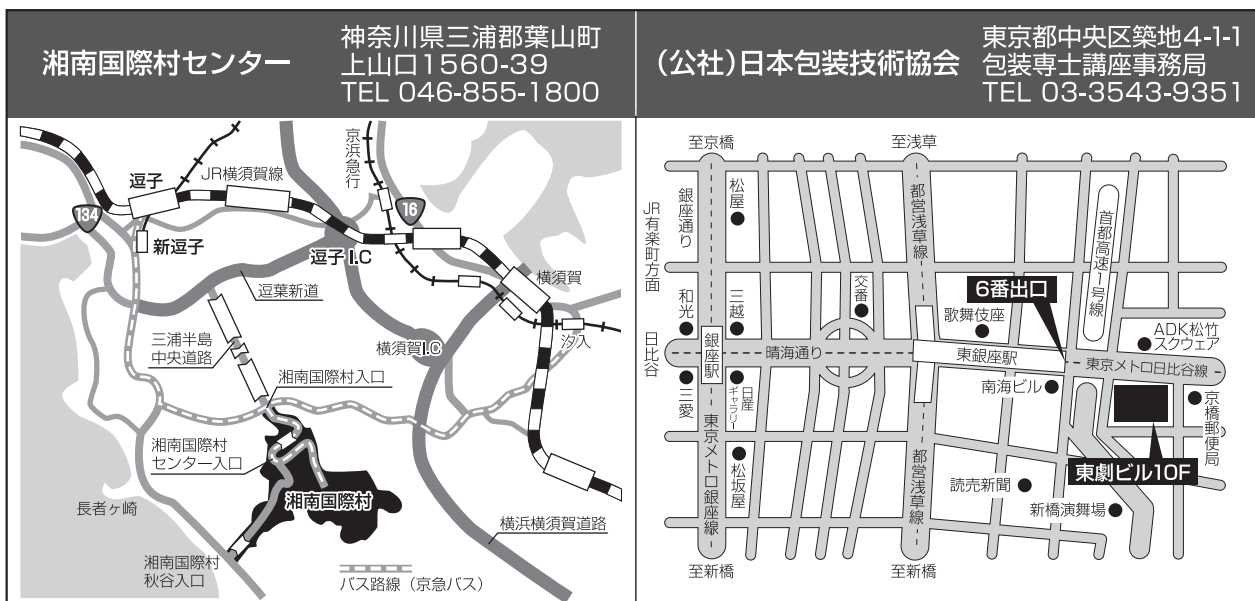
* 4 包装専士論文発表～合否審査

- (1) 共通教科1で、包装専士論文作成技法について説明します。
- (2) 各自が選定したテーマにより研究を進め、その成果を「包装専士論文」としてまとめます。
- (3) 包装専士論文発表は専門コース別に行い包装専士講座研修委員が審査します。受講生は交互に発表・聴講します。
- (4) 包装専士論文・理解度テストの結果及び出席日数を総合して、包装専士講座研修委員会が合否を判定します。併せて成績優秀者(金賞、銀賞、銅賞)を選びます。

* 5 合格証書授与式

- (1) 合格者には合格証書を授与し、<包装専士>(CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL)の称号が与えられます。<包装専士>は包装技術の専門家としての証です。
- (2) 成績優秀者には表彰状並びに副賞が授与されます。

会場案内図



JR横須賀線・逗子駅又は京浜急行・新逗子駅・汐入駅よりバス約30分

2023年度 包装専士講座企画委員

委員長	園山 洋一	公益社団法人日本包装技術協会 専務理事 包装専士
委員	島田 賢一	三菱商事パッケージング(株) 経営企画本部 理事 本部長代行 包装専士
〃	小谷 直己	凸版印刷(株) パッケージソリューション事業部 サステイナブルパッケージングセンター 部長
〃	東山 哲	レンゴー(株) 包装技術第一部 東京包装技術第三課 担当部長 包装専士
〃	高橋 慶	NX商事(株) ロジスティクス・サポート事業部 品質管理部 担当部長 包装専士
〃	伊藤 克伸	大日本印刷(株) 研究開発・事業化推進センター 事業開発本部 食とヘルスケア事業ユニット 副ユニット長
〃	小野 公裕	ハウス食品グループ本社(株) 研究開発本部 容器包装開発部 グループ長 包装専士
〃	小寺 隆夫	東洋製罐(株) 営業統括室 第一グループ 担当課長
〃	八木野 徹	株クラウン・パッケージ 社長付広報室 室長 テクニカルマネジャー 包装専士
〃	千田 隆行	第一三共(株) 製薬技術本部 製剤技術研究所 包装・製剤エンジニアリング研究グループ 主任研究員 包装専士
〃	神谷 文敏	公益社団法人日本包装技術協会 包装技術研究所 生活者包装研究室長 包装専士

(敬称略)

2023年度 包装専士講座受講願書

公益社団法人日本包装技術協会 御中

※受講者の名刺を1枚同封の上、本紙をお送りください。

2023年 月 日

フリガナ 氏 名	男・女	顔写真貼付 (3×4cm)		
生年月日 西暦 年 月 日 (満 歳)				
会 社 名				
所属・役職				
所 在 地 (〒 -)				
TEL ()	FAX ()	携 帯 - -		
E-mail				
最終学校名 (専攻:)				
職 務 歴	年 月			
*できるだけ詳細に	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
包装関連経験年数	年 カ月	専門分野		
包装管理士取得年	年 (第 期)	包装管理士 No.		
専門コース *希望コースに○印	輸送包装コース (第36期)	食品包装コース (第37期)	包装材料コース (第36期)	医薬品包装コース (第35期)

推 薦 書

公益社団法人日本包装技術協会 御中

2023年 月 日

本受講願書に記載の者は、記載内容に相違ないことを確認し、2023年度 包装専士講座の
受講適格者であることを認め推薦致します

推 薦 者 名		TEL ()
会 社 名		FAX ()
所属・役職		
所 在 地	(〒 -)	

切り取り線

公益社団法人日本包装技術協会 of 事業案内

〔設立の目的〕

社団法人日本包装技術協会は、昭和 38 年 3 月 14 日、包装技術等の向上改善を通じて生産・流通および消費の合理化を図り、もってわが国経済の発展に寄与することを目的として設立されました。また、平成 23 年 11 月 1 日に公益社団法人日本包装技術協会として、新たにスタート致しました。(会員数 1,200 社)

〔協会の主な事業〕

目的を達成させるため、下記の事業を行っています。

- ◆包装に関する調査・研究
- ◆包装に関する規格の作成・制定およびその推進
- ◆包装に関する試験、技術、デザインの開発および指導・相談とその普及
- ◆内外関係機関との連絡提携
- ◆包装人材の育成並びにその推進
- ◆包装啓発活動およびその推進
- ◆その他本会の目的を達成するために必要な事業

●入会手続

入会申込書に諸事項を記入のうえ、お申込みいただくことにより入会が認められます。入会には、特に資格その他の制限はありません。

	法人会員・賛助会員	個人会員
入会金	20,000円	10,000円
年会費(一口)	120,000円	45,000円

※詳細は総務部までお問い合わせください。

1. 研修・交流事業

- 月例研究会・企業見学会
- 包装管理士講座
- 包装専士講座
- 各種セミナー
- 月刊誌「包装技術」の発行
- 技術相談・コンサルティング
- 各種情報サービスと各種出版
- 各種包装懇話会

2. 交流・啓発事業

- 世界包装機構(WPO)、アジア包装連盟(APF)等との連携
- 海外包装専門視察団の派遣
- 海外包装技術研修および視察団の受入実施
- 全日本包装技術研究大会
- 木下賞
- 日本パッケージングコンテスト
- グッドパッケージング展
- 東京国際包装展(TOKYO PACK)
- 暮らしの包装商品展

3. 調査・研究(JPI包装技術研究所)

- 包装標準化の推進
- JIS・ISO等各種規格の原案作成
- 海外における包装事情調査と技術協力
- 国内外包装産業統計の調査
- 包装の省資源・省エネルギーの調査・研究
- 生活者包装設計のための調査・研究
- 包装関係文献資料の収集整理



公益社団法人日本包装技術協会

本部 〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1
東劇ビル10階
TEL.03(3543)1189 FAX.03(3543)8970

関西支部 〒530-6691 大阪市西区北堀江 1-1-27
イマイビル 4F
TEL.06(6532)1189 FAX.06(6532)1179

中部支部 〒460-0003 名古屋市中村区錦 3-5-21
錦 HOTEL ビル 3D
TEL.052(228)2930 FAX.052(228)2980

西日本支部 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町 1-1
日通ビル5階
TEL.092(272)5632 FAX.092(272)5635

東北支部 〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1
(本部代行) 東劇ビル 10階
TEL.03(3543)1189 FAX.03(3543)8970

北海道支部 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目
北海道経済センタービル 6階〔北海道生産性本部内〕
TEL.011(241)8591 FAX.011(241)3898